

市民部会（市民会議）9年間の取り組みと成果

①取り組み

テーマ	解決手法	実際の取り組み
全体	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会 	<ul style="list-style-type: none"> ・（平成22年）流域圏住民の視点から、課題と問題解決手法の検討、地域部会への問題提起・提案を行う場として市民会議が開催された。 ・（平成23年）一色干潟などの「海」の現状を知る見学会を行った。 ・（平成23年）森の健康診断に参加し、「山」の現状を知る見学会を行った。 ・（平成23年）上流から下流まで「山・川・海」を知る2日間ツアーを開催した。 ・（平成23年）国土交通省、愛知県からの情報提供を通し、今後の河川事業を学ぶ会を行った。 ・（平成23年）市民有志による市民主導の運営を提案した。 ・（平成24年）市民に加え、行政、森林組合、学識者の連携した運営を提案した。 ・（平成26年）「ごみ・流木」「土砂」「木づかい」の3つのテーマを抽出し、それぞれ主務担当者を設け、活動を行うこととなった。 ・（平成30年）ワークショップ形式で、流域の上下流の課題、昔と今の変化、流域市民に伝えていきたいことを流域マップに示とともに、意見のカテゴライズを行った。また、流域連携を代表する標語を作成した。
ごみ・流木	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントへの参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・（平成25年）海部会主導で三河湾におけるごみ調査を行った。 ・（平成27年）山部会と協働して、東幡豆のトンボロ干潟周辺のゴミの現状を確認した。 ・（平成28年）海ごみ・川ごみの問題について、全国的な活動を実施している一般社団法人JEANおよび全国川ごみネットワークから、ごみ問題に関する最新の知見について、情報共有を行った。 ・（平成28年）愛知県が取り組むごみ学習プログラムの内容について情報共有を行った。 ・（平成29年）22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会主催の「藤前干潟エクスカージョン」に参加し、藤前干潟の清掃活動やごみ焼却場を見学した。
土砂	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会 	<ul style="list-style-type: none"> ・（平成24年）国土交通省からの情報提供を通じて土砂管理を学んだ。 ・（平成27年）川部会主体の勉強会として、小渋ダムの土砂バイパスを視察し、総合土砂管理の知見を深めるとともに、土砂管理検討委員会の進め方について意見交換を行った。 ・（平成26年～平成29年）三河湾の干潟・浅瀬造成に関する行政計画や事業内容、愛知県が実施した海底ごみ・生き物調査の結果を情報共有するとともに、鳥類調査を通じて干潟や背後の土地利用の問題を共有した。
木づかい	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントへの参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・（平成26年～平成30年）木づかいライブ・スギダラキャラバンは、流域内のみならず、名古屋や東京への出展等を通して認知度が拡大している。 ・（平成26～平成30年）流域ものさしを流域共通のアイテムとし、流域の市民に対して周知を進めている。

②成果（第3回市民会議まとめの会 意見交換集約）

テーマ	手法	できたこと	もう少しでできたこと	できなかったこと
全体	WG イベント等	市民主導の会議や勉強会の実施（懇談会設立直後）		川岸の利活用の議論
		市民目線の積極的な意見交換		参加者減少への対応
		地域の課題の共有		
		河川改修の目的や内容の理解		
		山川海それぞれの理解・交流・情報共有		
流域連携テーマ	ごみ・流木	奈佐の浜プロジェクト活動の実施（渥美）		地域部会（山川海）の話題・課題を把握できるシステム 市民部会（市民会議）としての流域連携テーマの議論 矢作川の望ましい姿のイメージの可視化・具体的行動
		土砂	砂の駅構想（いかだを利用した土砂運搬）	
	山川海合同ツアー（勉強会）の開催（頻繁な開催）			
	木づかい		市民目線による木づかい推進の実行	
		奥矢作森林フェスティバル・矢作川感謝祭・三河湾大感謝祭・アンフォーレ市民フェス（安城）・あそべるとよたプロジェクトへの出店（木づかい推進）		
	流域内の森づくりへの参加（間伐）			